

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月3日

【評価実施概要】

事業所番号	170503528		
法人名	合資会社 オープンハート		
事業所名	グループホーム 美優平岸		
所在地	札幌市豊平区平岸2条5丁目1-11第二柳田ビル (電 話) 011-521-3900		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道社会福祉総合センター4階		
訪問調査日	平成19年7月11日	評価確定日	平成19年8月3日

【情報提供票より】（平成19年6月12日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 17年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算	6.1人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	4 階建ての 1 階部分		

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	47,000 円		円
その他の経費(月額)	・光熱水費 20,000円 ・暖房費10,000円（11月～3月）		
敷 金	有（ 円）		（無）
保証金の有無 （入居一時金含む）	<u>有</u> （ 110,000円） 無	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	450 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

（4）利用者の概要（ 6月12日現在 ）

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護 1	1	要介護 2	4
要介護 3	2	要介護 4	2
要介護 5		要支援 2	
年齢	平均 80 歳	最低 66 歳	最高 89 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	メンタルケア札幌 小笠原医院 三浦内科 ライラック病院 高台病院		
---------	-------------------------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、ビルの1階をリフォームした造りで、窓から見える景観は公園や街路樹など自然の緑が美しい。居間と食堂は一体感があり、家族のように暮らしている。利用者の生活にメリハリをつけ、形式的なプログラムでなく楽しみを中心とした外出支援を多く実践している。特に、宿泊を伴う旅行などで自立支援に取り組んでいる。居間を中心として、みとおしの良い居室が配置され、バリアフリーで安全に過ごせる造りとなっている。居間は利用者と職員が一体となって共に歌を歌ったり、遊びをしたり、楽しい笑い声の絶えない明るく楽しいホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）		
	研修の取り組みとして、協力医院が主催する研修会に職員が参加している。地域の人々との交流促進を考慮して、積極的に地元のイベントに参加している。運営理念についても職員が全員で啓発に取り組んでいる。		
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）		
重点項目②	職員全員で検討しているが、ガイドブックの参照はなく着眼点などに相違がみられるので、次回に期待したい。また、評価の聞き取りの場所なども配慮してほしい。		
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）		
重点項目③	2ヶ月に1度会議を開催しているが、現在はホームからの報告が多い。既に地域活動に参加していたが、運営推進会議の開催により、交流の場が広がりボランティアの協力がスムーズに運んでいる。		
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）		
重点項目④	毎月発行しているホーム便りで、行事の写真など詳しく分かるように記載し、家族にのみ送付している。日常的には、家族から意見や要望などはあまりないが、訪問の際に家族に話している。		
	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）		
重点項目④	近所の公園への散歩や、商店街への買い物などの外出の機会を活用して、普通の生活の中に地域と孤立することなく溶け込んでいる。さらに、地域の催しにも積極的に参加しており、町内会長の理解と協力が得られるようになった。		

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時から理念に基づいてその人らしく、利用者本位にケアを実践している。しかし、地域密着型の理念は文章化されていない。	○	取り組みを具体化した言葉で、理念に盛り込むよう望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関・居間・事務室などに掲示し、利用者の満足度も高く実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	戸建住宅よりマンションが多い地域であるが、町内会に加入し活動にも出来る範囲で参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	項目が変わり始めての自己評価で、ガイドブックを参照するなどしての具体的な記載には至っていなかった。	○	ガイドブックに記載されている着眼点を参考にして、改善に向けて具体的な取り組みを期待する。食堂の片隅で聞き取りを実施したが、今回は場所の配慮を検討してほしい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設から地域の活動に参加していたが、運営推進会議をバネにして更なる広がりが見られる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的な報告は市の担当者に届けている。更に、地域包括支援センターと連携をとり、サービスの質の向上に役立てている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族に利用者の様子を知らせるため、毎月ホームだよりを発行している。また、合わせて金銭の報告も一緒にしている。面会時には、更に詳しくお話している。面会の少ない方には、随時電話で連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には訪問時、気軽に声をかけ意見が言える雰囲気作りをしている。しかし、意見や苦情は殆どない。運営推進会議には家族も参加して、意見が言える立場にある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去に、職員の移動により利用者に混乱が見られた。現在は、管理者をはじめ職員は時間を惜しまず利用者への配慮に心がけ不穏に成らない様に努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時はもちろん、継続研修として外部の研修に職員の参加を促している。なお、協力医院が開催する研修に参加して認知症の事例検討などの学びをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者と連携のあるグループホームの、職員の実習の受け入れや研修の合同開催など相互訪問などの交流がある。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	充分な話し合いの後、納得がいくまで何回もホームの生活を体験をしていただき、他の利用者や職員と共に過ごす機会を作り溶け込むようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が、一体となって生活を楽しんでいる。職員は、利用者を良く観察し理解し支えあう関係を作っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを確かめ、希望や話を聞いている。例えば、献立や行事、外出先など日常的な会話の中で聞き取りを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各利用者に担当職員を決めているが、チームでも話し合い活発に意見を出しあって、検討して介護計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては、毎月の会議で検討しているので、状況に合わせて3ヶ月を待たずに取り組む場合もある。現状に合わせたケアのプランを作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの外出支援、特に通院介助など利用者に寄り添って支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からの、かかりつけ医師との連携を重要視しており、利用者が適切な医療が受けられるように支援している。また、定期的に往診可能な医師を確保し、実践している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のケアについては、家族や本人とホームの限界について話をして了解を得て、個別に対応する体制になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人台帳はパソコンに入力されている。言葉かけなどが、丁寧であるが面会簿の書式を工夫してほしい。	○	玄関に置いてある面会簿は、日付順に記載されているが、プライバシーの配慮に工夫してほしい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活が豊かで、利用者が張り合いのある1日が過ごせるように、様々な取り組みがなされている。ホームに掲示されている写真は、旅行や遠足また外食の様子など生き生きした姿が写っていた。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の中でも、得意の分野で食事に興味があるか他の趣味など、一人ひとりの好みや特技を活かして出番を作り食事を楽しむ支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームとしては、特に入浴日を設定していないが利用者との話し合いで、午前・午後とそれぞれの好みで入浴ができるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの周囲に家庭菜園があり、利用者の楽しみになっている。外出を好む利用者や希望により、宿泊付きの旅行など家族と相談しながら実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームで利用できる車があり、出来る限り外出する機会を多く設けている。利用者は、週2回デイケアに参加している。近くの公園は利用者の散歩に適している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	生活の場であるホームでは、日中は玄関の鍵はかけておらず夜間のみ施錠している。居間の窓下を歩かないと道路に出れないので、職員の目が行き届いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	防火訓練は、実施している。また、札幌市防災センターを利用者と職員と共に見学し、学びを深めている。運営推進会議を通して地域の協力を依頼した。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の中に栄養士の資格保有者がいて、献立作成や食事に関して細かい配慮がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ビルの1階をリフォームした造りであるが、窓から見える景観は公園や街路樹など自然の緑が美しい。居間と食堂は一体感があり、家族のように暮らしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は各自馴染みの物品を配置して、落ち着いた雰囲気となっている。中には夫の遺影を飾って大事にしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。